

第4学年体育科学習指導案

日 時 平成24年11月1日(木) 5校時
児 童 4年3組 男17名 女16名 計33名
指導者 佐々木 健也

研究課題

運動の楽しさやできた喜びを味わい、実践しようとする児童の育成

研究課題について(設定理由)

多くの子どもは、体育が好きであり意欲的に授業に参加する。また、話し合い活動も好んで行う子どもが多い。しかし、運動場面においても話し合い場面においても、消極的になってしまう子どもが何人か見られる。

そこで、どのような運動であっても、簡単な運動を通してできる安心感を与え、進んで運動に取り組む気持ちを高めさせていきたい。また、友達との交流の中で、一緒に運動する楽しさや、動き方のコツを理解させていきたい。

運動を楽しみ、運動ができるという思いをもたせることで実践しようとする気持ちが高まると考え、本課題を設定した。

1 単元名 みんなでつくろう! チームで跳び箱(B 器械運動 ウ 跳び箱運動)

2 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、体育の授業が好きと答える児童が多く、笑顔で一生懸命運動に取り組む児童が多い。また、話し合いを行う際は、進んで自分の意見を伝えようとする姿が多く見られる。しかし、苦手な運動になると消極的になったり、何をどうしていいかわからずぼんやりしたりする児童もいる。

児童は3年生時、跳び箱運動の中で、開脚跳び、台上前転を経験してきている。また、抱え込み跳びまで経験している児童もいる。しかし、レディネステストを行ったところ、開脚跳びができない児童が7人、台上前転ができない児童が7人いることが分かった。動きを見たところ、体を支持できていない、思い切って踏み切れない、肩を前に出せないなどが見られた。安全面について、勢いで運動している児童もいるので、けがのないように留意していく必要がある。

(2) 教材観

本単元で扱う跳び箱運動は、学習指導要領では、「基本的な支持跳び越し技をすること」と位置付けている。

扱う技は、切り返し系では開脚跳び、発展技として大きな開脚跳びと抱え込み跳びを、回転系では、台上前転、発展技として大きな台上前転を扱う。跳び箱運動は、スモールステップを活用することによって、上達の程度をはっきりとつかむことができる運動である。すなわち、できなかったことが、できるようになったとき喜びを感じ、さらなる課題に挑戦しようとする意欲をもたせながら、学習を進めることができる運動であるといえる。そのために、助走・踏み切り・着手・着地の一連の流れの中で、系統性をもたせながらポイントをしっかりと押さえて、技を習熟させる必要がある。

また、本単元では、チームによる集団演技にも取り組んでいく。集団演技は、跳ぶタイミングや跳ぶ方向など、習熟させた技をさらに高めることができることや、仲間と一緒に作り上げる楽しさ、運動ができた喜びを共有させていくことに適している。集団演技を通して児童の運動技能を高め、かつ児童相互の受容的な関係作りの一助になると考えている。

(3) 指導観

児童一人ひとりが運動を楽しんでいると感じ、伸びや高まりを感じる中で、できたという実感をもてるように以下のような手立てを講じていく。

①考えさせたい運動のポイントを絞った単元指導計画の立案

	開脚跳びのポイント	台上前転のポイント
3年生	腕支持と突き放し	腕支持と腰を上げての前転
4年生	しっかり踏み切って 大きな開脚跳び	しっかり踏み切って 大きな台上前転

②基礎感覚を養う時間として、類似運動を導入に取り入れる。

③スモールステップできるような場の工夫をする。

④集団演技に取り組むため、グループを固定し、同じメンバーで全時間運動する。

⑤技のポイントを書き込む掲示物やカードの工夫をする。

3 単元の目標

態度	<ul style="list-style-type: none"> 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲良く運動しようとしている。 仲間と協力して安全に気を付けながら運動しようとしている。
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 技のポイントについて、自分で考えたり、仲間と話し合ったりしながら見付けている。 練習法を理解し、練習に取り組んでいる。
技能	<ul style="list-style-type: none"> 自分の力に合った技に取り組み、その技を安定してできる。 ペアやチームで自分たちの力に合わせて技を組み合わせることができる。

4 指導計画

	1	2	3	4	5	6本時	7	8	
10 20 40	オリエンテーション、ルール説明、学習の見通し、試しの運動	準備運動・用具の準備						集団演技発表会 練習	四年三組 集団演技発表会
		類似運動・基本的な動き確認							
		3年生の技 確認 開脚跳び	開脚跳び 台上前転	大きな 開脚跳び	抱え込み 跳び	大きな 台上前転			
		3年生の技 確認 台上前転							
集団演技の 説明	大きな開脚跳び	集団演技の取り組み							
学習の振り返り									

5 本時の指導

(1) 目標

(思考・判断) 大きな台上前転を行うためのポイントを見付けている。

(技能) 大きな台上前転ができる。

(2) 展開

段階	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価	場・用具
導入 7分	1 準備運動・場の準備 2 基礎感覚作り（類似運動） ・じゃんけんすごろく ・踏み切り，手の突き放し遊び ・簡単な場での跳び箱 3 学習内容の確認 ・大きな台上前転のポイントを見付け，できるようになろう。 ・技の組み合わせを考え，美しい集団演技をしよう。	・前時の準備タイムを伝え，より早く準備できるように促す。（安全面には気をつけさせながら） ・一つひとつの場で，しっかりポイントをおさえさせる。 ・思い切っでできるように安全面に注意する。 ・課題を確認し，台上前転との違いを全体で確認する。 ・視点を与えてポイントを見付けさせる。 ・台上前転との違いも考えさせる。 視点1 腰の高さ 視点2 膝の伸び 視点3 着地	・掲示物 ・技カード
展開 33分	4 大きな台上前転の運動のポイントを見付ける。 5 大きな台上前転の練習 6 大きな台上前転を使って，集団演技の練習を行う	・チームごとに大きな台上前転の練習をしながら，3つの視点からポイントを見付けさせる。 ポイント1 腰を頭よりも高く ポイント2 膝を伸ばす（できる子はゆっくり回転させる） ポイント3 ふわっと着地する ・全員集合し，ポイントを確認し合う。 ◇視点3つに従って，ポイントを見付けられている（観察・発表） ・全体で確認したポイントをもとに，班で練習する。 ・技を行う前にポイントを発表してから行わせる。 ・見る側は，できているかチェックし，励ましたりアドバイスしたりする。 ◇大きな台上前転ができる。（観察） ・跳び箱の高さや必要な用具を使わせて，ペアやチームで集団演技の練習を行う。 ・本時で行う基本的な型を示して，技や跳ぶ方向など集団演技の構成を話し合わせる。 ・集団演技をする際に，ポイントが意識できるように声をかける。	・跳び箱 ・マット ・ロイター板 ・技カード ・ゴムひも ・マット ・跳び箱 ・ロイター板 ・カード
終末 5分	7 学習の振り返り 8 後片付け	・大きな台上前転がどの程度できたか，確認する。 ・集団演技の練習で，新しくポイントを見付けられたか確認する。 ・振り返りの感想を発表させる。 ・次の時間には，集団演技の発表会に向けて確認や練習を行うことを伝える。 ・前時の片付けタイムを伝え，早くかつ安全に片付けられるよう促す。	